



# こんばんは 遠友塾 です！

「札幌遠友塾自主夜間中学（遠友塾）」は、ボランティア・スタッフが運営している自主夜間中学です。これまでさまざまな理由で義務教育を十分に受けていない500人以上の人たちが、励まし・支えあいながら学んできました。2009年から皆様のお陰で、札幌市立向陵中学校の教室で、毎週水曜日の夜に授業を行ってきました。なお、コロナ禍のため、2020年度からは休塾を挟みながら、札幌市教育文化会館を借りて授業を行っており、10月中旬からは全クラスで再開しています。

## 遠友寄席



11月10日、2年振りとなる特別授業が行われました。今回は、二つ目林家きよ彦さんによる落語です。

きよ彦さんは札幌藤女子大学出身の33歳の女性。北大の落研に所属していた事がきっかけで落語家を目指したそうです。

当日は受講生さんやボランティアスタッフが1時間以上も前から会場に現れ、楽しみにしている様子が伝わってきました。

まずは和服姿の遠藤代表の挨拶から始まります。きよ彦さんは現代落語や創作落語も得意としていますが、今回は古典落語「子ほめ」と「初天神」の二つの演目でした。

演目に入る前には、出囃子の太鼓の音の説明など、普段は聞かない話を伺う事が出来、皆さんも落語が身近に感じました。

事でしょう。蕎麦や蜜をすすめる音、登場人物の声色や表情等、間近に



見る嘶家さんは迫力満点！生の落語を初めて見る方はもちろん、皆さんとても感激した様子でした。最後に受講生を代表して



2年生の篠山護人さんがユーモアを交えた言葉で感謝を述べました。コロナ禍の自粛で、エンターテイメントに出かけることが難しい日々が続きましたが、この先少しずつでもこの様な機会が増えるのを期待します。今回この素晴らしい企画に携わった方々に感謝申し上げます。有難う御座いました。

### 林家きよ彦さんへの一言インタビュー

○女性の落語家が少ないのは？ もともと落語は男性がするもので、古典の話言葉も男性言葉が多い。50年ほど前から女性の落語家が出てきたが、今でも全体の5%くらいの男性社会です。

○落語家生活（修行）の厳しさ、楽しさ 1年目は365日寄席に通って、師匠のお世話やら雑用を1日1000円で過ごす。それから、5年くらいすると二つ目になり、真打にはそれから10年以上かかる。創作落語で師匠の理解もあるし、創作落語で

自分の表現したいことを話せるのが楽しい。突然の手紙で失礼します。初めまして。東京都にあるF高校1年生の〇〇〇と申します。本日は札幌遠友塾様の夜間学級の制度に関してお聞きしたいことがあり、手紙を書きました。私は現在、通っている高校の学習としてSDGsについて調べております。SDGsの171個の目標の中で私は特に教育について興味があり、深く調べることにしました。教育制度を調べるうちに、以前テレビで拝見した夜間学級という制度が脳裏をよぎり、夜間学級に絞った教育について調べております。そこで、何点かお伺いしたいことがございます。（以下省略）



### 東京の高校生から遠友塾に手紙

資料を受領後のお礼状 この度は、たくさんの資料を送っていただき、ありがとうございます。生徒の皆様やスタッフの方々の思いを知ることができ、非常に勉強になりました。今後の私自身の学びに役立たせていただきます。資料を通して夜間中学を深く知ることができたと同時に、教育に対する興味ももっと深まりました。（抜粋）



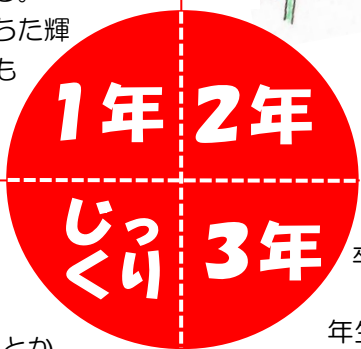
# 休塾中も再開後も みんな元気で楽しく学んでいます！



全世界を巻き込んだ新型コロナウィルスの影響は、学びを求める「遠友塾」の多くの受講生の方々にも打撃を与えた。入学はしたものの、ほとんど通塾することが出来ない状況になり心が痛む。休塾、再開、変更と何度、担当受講生さんに電話をしたことか・・・。

「しかたないですねー」と寂しそうに答えてくれる受講生さんに「お元気でいてくださいよ、お会いする日を楽しみにしていますからね」と声を掛けながらも「こんなに休みが続いて、学ぶ意欲は失われないだろうか？体調は大丈夫だろうか？」などと危惧していたが、それは全く余計な心配であった。待ち望んでいた学習の機会が再開されると、コロナ感染の緊張感を持ちながらも皆さん元気に明るく足を運んでくださっている。

自発的に学びを求める方々の、意欲に満ちた輝く姿を見るのはとても心地良い。スタッフも元気を頂き、「お互いに頑張りましょうね！」という明るい雰囲気漂っている。



遠友塾 じっくりニュース (2021.7.12)  
元気ですか？ (第20号)

じっくりクラスでは、休塾の間、「なんとか受講生とスタッフを含めた仲間のつながりは大事にしたい」との思いから、じっくりニュースを月に2～3回のペースで発行しました。上記は第20号のタイトルです。皆さんからの投稿をもとに、およそ2～4ページの写真の多い紙面ができましたが、今まで知らなかった仲間のことが、このニュースで初めて分かったということもありました。休塾の寂しさを、少しは癒せたように思います。

10月中旬からは、待ちに待った毎週の授業が再開しました。ホームルームの時間には、改めてメンバー（仲間）全員の自己紹介の時間も持っています。



## 「クラス通信」拾い読み

### 【受講生さんの詩】

最大な喜びのみんなの顔  
そして私もまた楽しくなる  
一人の顔が百人の顔に輝く  
それが私達の中学生  
世界の心大集合です  
まあー先生頼みますよ



### 【スタッフの近況】



### 【ある日の受講生さんのできごと …… 英語のあいさつ】

孫 A Happy New Year.  
Thanks very much お年玉  
私 A Happy New Year.  
孫 ばあちゃんって器用だね。英語まで  
奥尻訛り(?)で言えるんだね。

### 【受講生さんの川柳】

母の日 尻に敷かれて 数十年

コロナ禍で何度も休塾が続く、3年生は卒業文集を書いたのに再度の3年生活。

この2年コロナの心配以外に、18名の3年生は、最愛の家族を突然亡くした方、企業の閉鎖・縮小で離職や配置転換が4名、病気や手術で入院生活を5名と、かなりの人が試練に晒されたが、なんとかそれも乗り越えて。それに加え、当初のワクチン予約をする大変さに、周りでは諦める人続出のなか、3年対象者は誰も諦めずに予約。皆の粘り強さを新発見。又、職場も遠友塾もない毎日を過ごすなかで地域の荒れ地を借り、人生初めての農業に挑戦し、見事広い野菜畑に変えた勇者も出現。初秋ようやく授業が再開した時の皆さんの笑顔は忘れられません。不安定な状況の中でも学びたいという受講生さんの情熱が伝わってきました。遠友塾生活の集大成として最後まで学びを深めていってほしいです。

そして全学年集まり、向陵中学多目的室で皆の歌声から始まる遠友塾生活が一刻も早く来てくれることを願っています。



## 受講・スタッフ希望はこちらまで

向陵中の先生・生徒さんも  
どうぞ見学に来てください。

○受講・スタッフ希望の方は、まず下記の連絡先（電話番号）までご連絡ください。  
○地域・保護者の皆さんの見学を歓迎します。また、本紙へのご意見もお寄せください。

連絡先：011-562-0122（代表 遠藤知恵子） 011-827-8072（事務局長 黒澤晴一）  
（準備の都合上、見学の方は必ず事前にご連絡ください。）

札幌遠友塾の最新の情報はホームページで：<http://www.enyujuku.com>